

鶴岡商工会議所 創立90周年記念事業 鶴岡・庄内を知る講座

第1回 12/11水

【鶴ヶ岡城の歴史と面影】
荘内神社宮司 石原純一氏

場所/荘内神社 参集殿
受講者/124名

豪族 武藤氏が築城した大宝寺城。最上義光の時代に鶴ヶ岡城へ。そして酒井忠勝庄内入部により御城の拡張工事、御圍櫓が建てられ、山当てによる町割りも形成された。

酒井家入部400年を
市民の手で盛り上げて
いきましょう



今後の
おしらせ

③ 1/22水 14:00~16:15
【藩校致道館の教育】
致道館文化振興会議 副会長
富樫 恒文氏 ※終了いたしました

④ 1/29水 14:00~16:15
【戊辰戦争前後の荘内】
旧庄内藩中老菅家13代当主
菅 秀二氏

⑤ 2/12水 14:00~16:15
【松ヶ岡の開墾と絹産業】
松ヶ岡開墾場 前理事長 山田 鉄哉氏
鶴岡シルク(株) 代表取締役社長 大和 匡輔氏

お問合せ/鶴岡商工会議所 総務企画課 TEL.0235-24-7711

令和元年
11/25

鶴岡公園の整備及び周辺の 景観形成についての勉強会

11月25日(月)、荘銀タクト鶴岡の会議室にて「鶴岡公園の整備及び周辺の景観形成についての勉強会」を社会基盤整備委員会主催、地域活性化委員会共催で開催し、両委員会の委員に加え、観光部会と建設工業部会の方々にも参加いただきました。

当勉強会は、まちなか観光客数の減少や中心部の高齢化・人口減少が進み、都市として活力・魅力の低下が懸念されている中で、中心市街地の活性化を図るためには、城下町としての景観形成や鶴岡公園の観光拠点としての整備などが重要であることから、これらを今後しっかり考えていくためのきっかけとなるよう企画したものです。

勉強会では藤沢周平記念館や、まちなかキネマ、鶴岡商工会議所会館などを設計された東北公益文科大学特任教授の高谷時彦様に「城下町としての趣き・風情を大事にした景観形成について」と題して、都市の中心部としての役割や鶴岡らしいの中心部の在り方などをお話いただき、続いて鶴岡市都市計画課城下のまちづくり推進主幹の鈴木英昭様に、鶴岡公園の整備計画や鶴岡市のまちなか居住に向けた取組みについてご説明をいただきました。講演終了後、講師を交えての意見交換会では、これからの鶴岡公園の在り方や、鶴岡中心部のまちづくりなどに関して多くのご意見を講師と共に交わすことが出来ました。今回の勉強会の内容や意見を踏まえ、中心市街地の活性化に向けた商工会議所事業を展開していきたいと思っております。

創立90周年記念事業の一環として、庄内の歴史を深く学んでもらおうと市民向けの講座を開催。現在の鶴岡・庄内の基礎を築いた庄内藩酒井家入部400年を2022年に控え、先人たちがそれぞれの時代を選択してきた道を知り、今を生きる私たちがこの地域を如何に持続発展していけるか、考える契機となればと思います。

第2回 12/18水

【酒井家の歴史と治世】
旧庄内藩主酒井家18代当主 酒井 忠久氏

場所/荘内神社 参集殿
受講者/152名

徳川四天王酒井忠次を祖とした酒井忠勝が1622年、庄内に入部。酒井家入部400年まであと2年。鶴岡の歴史を未来に繋ぎたい。



「江戸時代、庄内藩は東北諸藩随一の勢力を誇ったと言われていた」と話す酒井氏。そして酒井家の始祖で徳川四天王筆頭と称された、酒井忠次のエピソードなどを紹介。

③ 1/22水 14:00~16:15
【藩校致道館の教育】
致道館文化振興会議 副会長
富樫 恒文氏 ※終了いたしました

④ 1/29水 14:00~16:15
【戊辰戦争前後の荘内】
旧庄内藩中老菅家13代当主
菅 秀二氏

⑤ 2/12水 14:00~16:15
【松ヶ岡の開墾と絹産業】
松ヶ岡開墾場 前理事長 山田 鉄哉氏
鶴岡シルク(株) 代表取締役社長 大和 匡輔氏

お問合せ/鶴岡商工会議所 総務企画課 TEL.0235-24-7711

当日の次第

- 第1部 城下町としての趣き・風情を大事にした景観形成について
講師:東北公益文科大学 特任教授 高谷 時彦氏
- 第2部 鶴岡公園整備計画及び鶴岡市のまちなか居住に向けた取組みについて
講師:鶴岡市都市計画課 城下のまちづくり推進主幹 鈴木 英昭氏
- 第3部 講師を交えての意見交換会

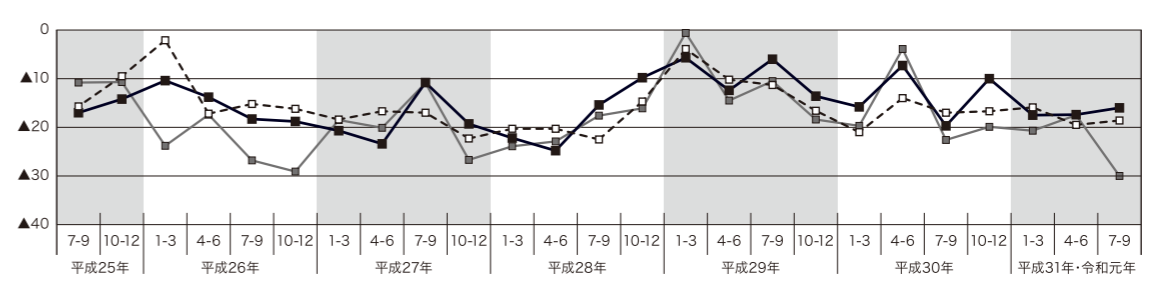


鶴岡商工会議所 景況調査

令和元年7月~9月期

* 調査対象:会員事業所264社 回答数:153社(回答率58.0%)

●業況DI(全業種)



●経営上の問題点

🏠 建設業

昨年度に引き続き「従業員の確保難」が最も多く、次いで「官公需要の停滞」「人件費の増加」が挙げられた。県内の労働力が首都圏へ流れており、人材・下請業者の確保することが難しくなっているとの声あり。また、近年の台風や豪雨などの自然災害の増加により、復旧工事等地域予算に影響が生じてしまうのではとの声もあった。

🔧 製造業

前回調査同様に「需要の停滞」、次いで「人件費の増加」が挙げられ、「原材料価格の上昇」「従業員の確保難」が続いている。中国経済の落ち込みによる国内需要の停滞がみられるとの声あり。また軽減税率の導入により、食品以外にかかる消費税率は10%である一方で販売品(食料品)は8%のため値上げもしにくいとの声もある。

📦 卸売業

「需要の停滞」、次いで「販売単価の低下・上昇難」「従業員の確保難」となっている。ベテラン社員の退職に対し、若手社員の採用ができないとの声もあり。また増税前の需要は伸びたが、その反動と今後の景況など不安要素が大きいとの声あり。

📈 小売業

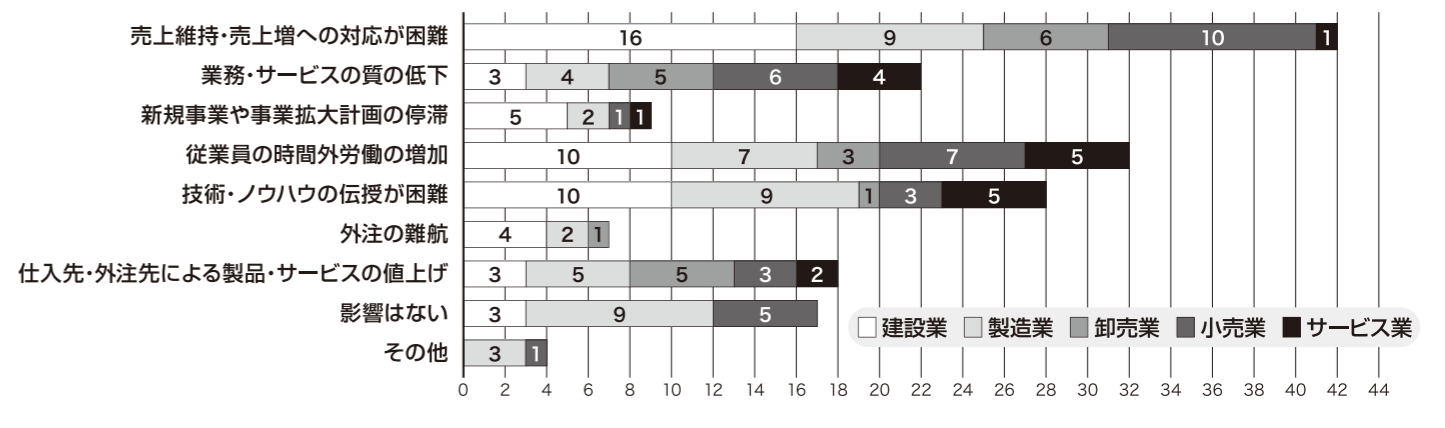
前回の調査と同様に「需要の停滞」が突出しており、「従業員の確保難」「販売単価の低下・上昇難」が同位で続いている。消費税増税の影響で消費の冷え込みを感じるとの声もあり。また、大型台風などの自然災害の影響でイベント等のキャンセルで売上に響いているとの声もあり。

★ サービス業

「従業員の確保難」が大きな課題となっており、「利用者ニーズの変化への対応」が続く。さらに「人件費の増加」「熟練従業員の確保難」「需要の停滞」「人件費以外の経費の増加」が同数で続いている。IT化が必要なのではないかと感じているとの声もあり。

付帯調査 人手不足による 具体的な影響

前年同期の鶴岡管内の有効求人倍率2.19倍(平成30年8月)に対して現在は1.82倍(令和元年8月)と昨年度と比べると人手不足に対する回復傾向が読み取れるが、山形県内の有効求人倍率である1.50倍(令和元年8月)と比較すると依然として鶴岡管内での人手不足感否めない。具体的な影響として【全業種】においては、回答事業所の43.8%が「売上維持・売上増への対応が困難」と答えた。次いで、多かったのが「従業員の時間外労働の増加」で33.3%と、営業面での影響だけではなく既存従業員への負担の増加にも結び付いている。



※詳細は、当所HP(<http://www.trcci.or.jp>)内「各種統計・データ」をご覧ください。